



開催報告：地域活性化フィールドワーク in 会津

- ・福島県では、地域と関わる様々な方との連携により、住民が主役の個性と魅力あふれる地域づくりを目指し、地域・人材つながり支援事業に取り組んでいます。この取組の一環として、身近な地域活動の見学や住民同士の交流等による地域づくりの機運醸成を目的に「地域活性化フィールドワーク」を、浜通り・中通り・会津の3方部で行っています。
- ・会津での開催となる今回は、喜多方市で、地域住民の交流拠点施設や無人農産物直売所などの運営を通じて、住民主体の地域づくりに取り組む「こまがた元気会」を訪問しました。
- ・見学では、取組に至った背景や想い、行政・地域との関わりについてお話いただき、その後のワークショップで参加者の学びの深掘りと共有を行い、最後に参加者から「こまがた元気会」への「勝手アドバイス」を行うなど、双方に実りある内容となりました。

<フィールドワークの様子>

開催概要

日 時：令和8年10月13日（火）10:30～15:30
会 場：駒形地区公民館（喜多方市塩川町中屋沢字竹の花1372番地1）
講 師：宇都宮大学地域デザイン科学部教授 石井 大一郎 氏
こまがた元気会 大平 正芳 氏
内 容：①こまがた元気会の取組紹介、駒形地区のフィールドワーク
②グループでの意見交換、学びの共有、勝手アドバイス
参加人数：14名（自治会・協議会、地域おこし協力隊、自治体職員等）
主 催：福島県企画調整部地域振興課



<グループワークの様子>

参加者の感想（抜粋）

- ・地域の団体として、実際に実施しているマルシェやお助け隊といった事業展開を間近で見学できて良かった。
- ・大平さんは外部から来て、現在は地域のキーパーソンとして活動されており、町おこしや地域交流を図る事業、さらには幅広い事業を取りまとめる体制の構築は非常に学びになった。
- ・行政に依存せず、こまがた元気会（地区）が主体となって事業を実施しており、持続可能な事業の構築は、今後の展開も見据えており、理想的な形であると感じた。
- ・講演会のような堅苦しい雰囲気ではなく、大平さんをはじめ、石井先生や参加者と活動の思いや経緯など、話のやり取りができて良かった。

